

やまがた暮らしの女性の



オンライン 100人女子会 プロジェクト —レポート— 概要版

はじめに

近年、若者、特に女性の県外転出は男性の1.5倍と顕著になっています。

今年度、県では、当事者である女性が、山形県で暮らし働くことについて、どのように考え、どんなニーズがあるかを調べるため、オンライン100人女子会プロジェクトを実施し、レポートとしてまとめました。



女性のホンネ その1

オンライン100人女子会 「仕事」「家庭生活」「地域・暮らし」をテーマに対話

女性のホンネ その2

インターネットアンケート「女性の暮らし方・働き方に関する調査」
山形県の生活の満足度、仕事や暮らしの中でのモヤモヤなど

女性のホンネ まとめ

女性も幸せに暮らし働ける山形県のために

オンライン 100 人女子会

県内外の女性の皆さんから、やまがた暮らしのホンネを意見交換する「オンライン 100 人女子会」を開催しました。

日時：令和 3 年 9 月 26 日(日)13:30 ~ 16:00
場所：オンライン

参加者データ

【参加人数】102 名
【年代】～20 代：43%、30 代：35%、40 代～：22%
【居住地】県内：84%、県外：16%
【職業】学生：15%、社会人：85%

仕事

県内で働いている人の声をもっと聞きたい

高校生などの若いうちから、いろいろな世代の女性と話せる機会を増やして、選択肢や視野を広げられたら良いと思った。

賃金が低い

都心部と比べて 10 万円ほど月給の差があり、金銭面を考えると山形で働きにくい。

子育てもキャリアも大事にしたい

妊娠・出産は女性にしかできないので、仕事をしていても休暇は取らざるを得ないし、若いうちから妊娠・出産を考えてキャリアを組み立てないといけない面が男性とは違う。男性の中には“子育ては女性にまかせればいい”と考える人もいて、不平等さを感じる。

県内では女性が仕事で活躍するのは難しそう？

山形に住み続けたいけれど、山形でどういう仕事ができるのかがわからず、希望が持てない。

家庭生活

多様な女性の「生き方・価値観」を受け入れてほしい

周囲の友達は、「早く結婚したほうがいい」などの上の世代からの声が嫌で県外に行く人が多い。

「お母さん」の負担が大きい

若い世代に、「家庭のことは女性の役割で、それを放り投げたら周りからどう言われるかわからない」という価値観がすりこまれている。妻・母の役割に世間からの評価も加わり、母親は二重三重に我慢しているイメージになっている。

山形の男性は育児に協力的、でも…

周りでも育児参加している男性が多い気はするが、家事を主に進めるのは女性という考えは消えていないと思う。



地域・暮らし

田舎のコミュニティは一長一短

田舎だと干渉が多く、他人の家庭環境を周りが良く知っている。地域が狭く、ありがたい面もあるが、プライバシーがないと感じる。

若者・女性の地位が低い

冠婚葬祭や親族が集まる宴席などで、いまだに女性だけが働いている姿を見かける。3 世代同居だとなおさらな気がする。

学生と地域のつながりが欲しい

子ども会は中学生までであり、卒業後は成人式まで地域との繋がりが無い。学校と地域のつながりを途絶えさせないためのコミュニティが欲しい。学生と大人が話せる語り場などが欲しい。



山形県の女性の暮らし方、働き方に関するアンケート調査結果

若年女性の転出超過が課題となる中、女性の転出志向や希望する暮らし方、働き方の要素などの女性の現状・ニーズを把握するため、アンケート調査を実施しました。

概要

【対象】 県内在住またはUIJ ターン等に関心がある方(学生含む)
 【実施期間】 令和3年11月5日～11月30日
 【実施方法】 インターネットアンケートフォームによるオンライン回答
 【回収数】 1,310件(女性1,121件、男性183件、その他6件)

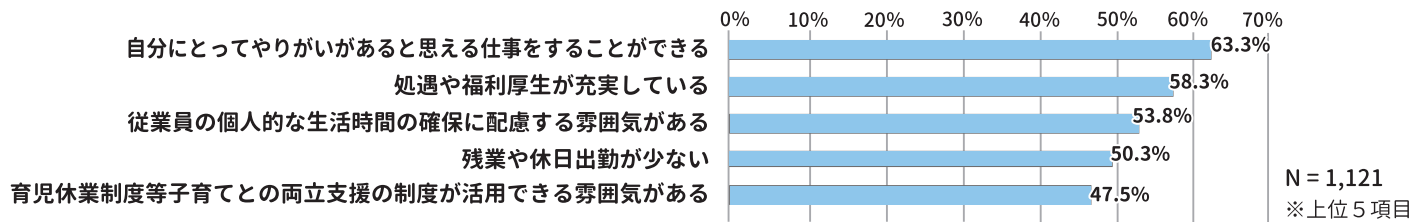
山形県の生活の満足度

食や自然環境への満足度が高い一方で、慣習・しきたりや雇用環境の満足度が低い状況になっています。

1位	2位	3位	・・・	7位	8位	9位
食や自然環境 86.4%	家庭生活 57.1%	子育ての環境 33.4%		交通・買い物等の生活環境 27.8%	雇用環境 25.7%	社会通念・慣習・しきたり等 16.9%

希望する働き方ができる環境について

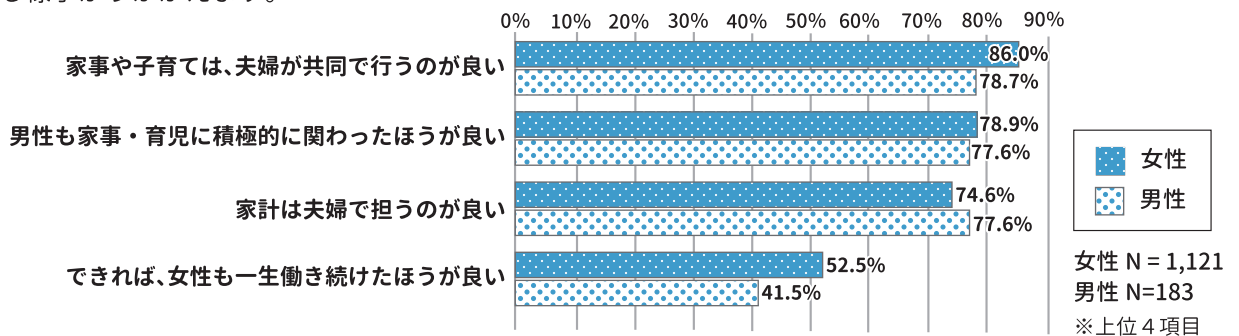
やりがいや処遇の充実、ワーク・ライフ・バランスを重視する傾向が見られました。



女性と男性の役割分担について

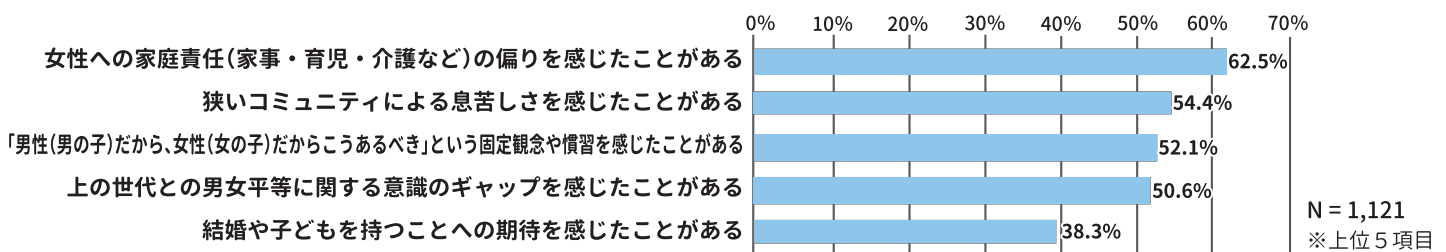
(本設問のみ、男性にも回答いただきました。)

男女ともに、家事や子育てを夫婦共同で行うのが良いと考える人が約8割にのぼるなど、家事や子育てを分かち合うことを希望している様子が見えます。



仕事や暮らしの中でのモヤモヤ

家庭責任の偏りや、固定観念、慣習に違和感を感じる人が半数以上にのぼり、依然として根強い固定的な役割分担意識や性差への偏見・思い込み(アンコンシャスバイアス)があることが明らかになりました。



女性も幸せに暮らし働ける山形県のために

「女性の声」から考える
誰もが暮らしやすい・働きやすい
山形県の実現に向けたヒント

オンライン 100 人女子会、
ネットアンケートでは、
女性の様々なホンネが
見えてきました。

職場では

- ◆ 女性は山形県内の仕事に対して、職種の偏りや都会よりも仕事の種類が限られること、賃金の安さなどへのマイナスイメージを持ち、また女性が仕事で活躍するのは難しそうと感じています。

一方で、「山形には仕事はない」は思い込み「高校までの間にどれだけ山形を知るかが大切」「様々な世代の女性と話せる機会を増やして、選択肢や視野を広げられたら良い」という意見もあり、**早い段階での多様な仕事・働き方・生き方のロールモデル(※)の提示が重要です。また、やりがいや十分な所得が得られる多様な仕事の創出も求められています。**

※ロールモデルとはキャリア形成の上でお手本になる人物

- ◆ 多くの女性が「仕事で活躍するキャリア」と「プライベートの充実」のどちらも大事にしたいと考えています。女性も男性も能力を十分に発揮していきいきと働き、同時に自分や家族との時間も大切にできるよう**処遇の改善・活躍の場の拡大や柔軟な働き方・男性の育児休業の取得の推進**などが必要です。



家庭では



- ◆ 「女性はこうあるべき」などの決めつけや無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に多くの女性が違和感を持っています。また、**家庭に対する考え方は時代とともに変化しており、「世代間の男女平等の意識のギャップ」も感じているようです。**

多様な女性の「生き方・価値観」を尊重することが大切ではないでしょうか。

- ◆ 育児に協力的な男性は多いものの、家事・介護などの家庭責任の偏りに負担感を感じている女性は多く、その姿を見て育つ子ども世代への影響も見えてきました。一人一人が「**性別に関係なくパートナー・家族とお互い協力しあって生きる**」ことができるよう、家庭内での役割分担などを話し合ってみてはいかがでしょうか。

地域では

- ◆ 地域コミュニティ(人と人のつながり)に「安心感」がある一方で、同調圧力やプライバシーのなさなどに「窮屈さ」を感じている人も多くいました。人とつながりは大切にしつつ、「常識」や「何を幸せと感じるか」は違うということを頭に置いて、**多様性を尊重していきましょう。**

- ◆ 若者や女性が参画、発言しづらい、性別や年齢で役割が固定化しているなど、「地域に存在する格差」があるようです。**地域行事の慣習や話し合いの顔ぶれは年齢・性別などに、固定化や偏りはありませんか？**

時には活動を見直したり、活動を継続させるために女性・若い人なども参画しやすい仕組みを作るなど、「**これまでやって来たやり方**」にこだわらず、**できることから始めていきましょう。**



「オンライン100人女子会プロジェクトリポート」の全文などより詳しい情報は、**県HP**をご覧ください。

問合せ：山形県 しあわせ子育て応援部 女性・若者活躍推進課

TEL.023-630-3269 FAX.023-632-8238

制作：「オンライン 100 人女子会プロジェクト」事務局（株式会社山形テレビ）

(令和4年3月)

